

BOA メリルリンチ コンファレンスコール 「テレマティクス自動車保険」説明資料



MS&AD あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

テレマティクス自動車保険とは

Telematics

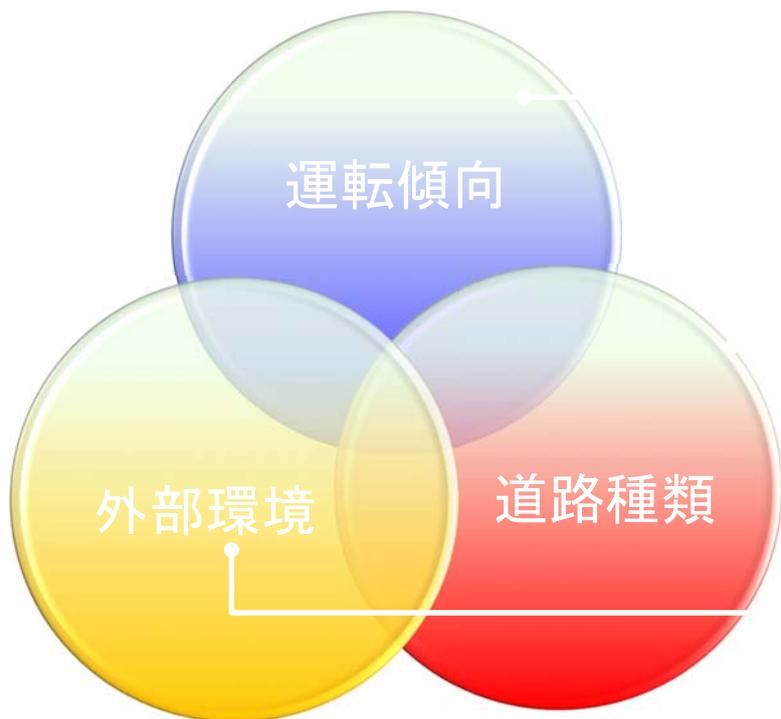
Telecommunication
(遠隔) 通信



Informatics
情報工学

- テレマティクス技術を活用し、車両から得られる様々な情報に基づきドライバーに安全運転を促す、「安全運転インセンティブ保険」としてのテレマティクス自動車保険・サービスへの期待が高まる。





急加速・急ブレーキ・ハンドリング
・距離・超過速度・時間帯など

一般道・幹線道路・高速道路・
危険の多い道路の割合など

降水量・雲量・気温・日射量・
風速・地域など

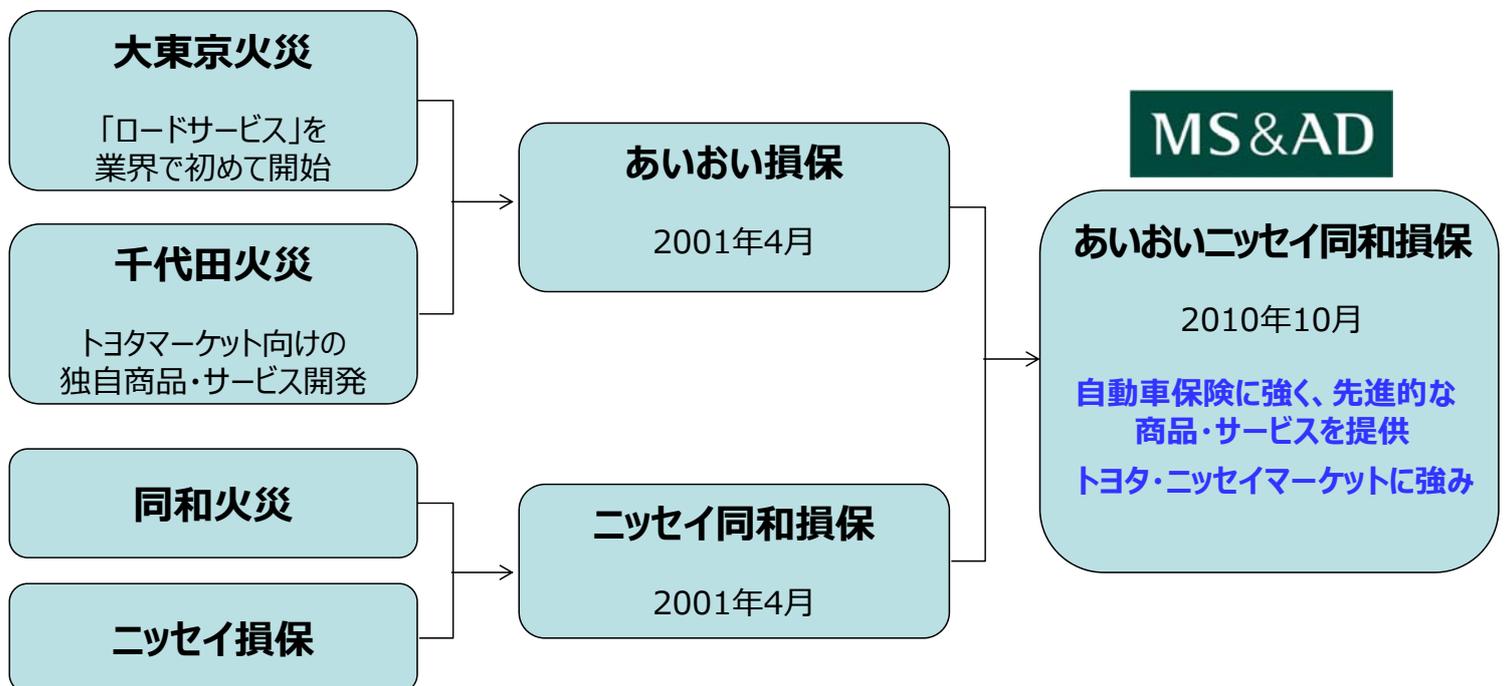
■ テレマティクス保険は、世界各国で進展中

■ 現在最も普及しているマーケットは、米国、英国、イタリア、南アフリカなど

地域	最新動向
米国	<ul style="list-style-type: none"> ■ 最もテレマティクス保険が進展しているマーケット ■ 最大手のProgressive社は、400万超の契約者を獲得
欧州	<ul style="list-style-type: none"> ■ 専用の車載デバイスやスマートフォンの活用が主流 ■ 英国では、保険料の高い若年層のドライバーに特化したビジネスモデルが主流 ■ イタリアでは、車載デバイスを利用した盗難対策で普及

テレマティクス自動車保険開発の背景

- 当社は、あいおい損保とニッセイ同和損保が2010年10月に合併してできた損害保険会社
 - あいおい損保は、大東京火災と千代田火災が合併してできた損害保険会社
ニッセイ同和損保は、同和火災とニッセイ同和損保が合併してできた損害保険会社
- ⇒自動車保険に強く先進的な商品・サービスを提供する損害保険会社



トヨタ向けの独自専用商品

衝突実験から生まれた自動車保険 「ドーン!とおまかせ」

- ・国内損保の中で唯一衝突実験設備を保有し、メーカーに近い損保会社である強みを活かした独自商品
- ・自動車の「壊れにくさ」「修理のしやすさ」を、当社の衝突実験設備で独自に評価し、保険料を割引



トヨタとの提携関係から生まれた独創的な商品

- ・クルマの割賦代金と自動車保険料をセットで支払う便利でお得な自動車保険 「コンビにプラン」
- ・カード払で無事故祝い金付自動車保険 「ながらくプラン」
- ・トヨタ自動車のテレマティクスサービス「T-connect」と連携した自動車保険 「つながる自動車保険」 等



MS&AD あいおいニッセイ同和損保

あいおいニッセイ同和損保が
テレマティクス自動車保険に取り組む理由

コネクティッドカーマーケットの拡大

◆ 自動車マーケット予測



* 出典：自販連

◆ コネクティッドカーマーケット予測

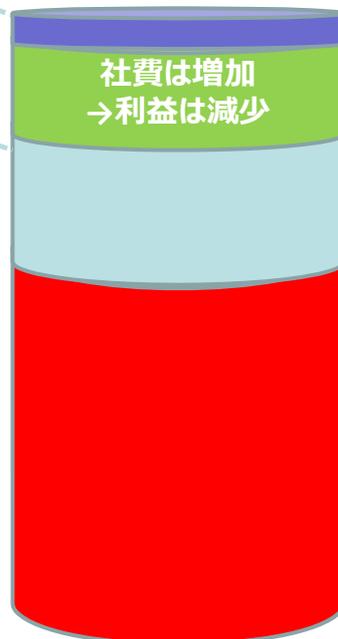
	2012年	2025年
世界	760万台	8,500万台
日本	9万台	1,275万台

約140倍に拡大

収益性の強化

割引による単価減と
テレマ運営費による
社費増加で利益減少

安全運転促進で事故を
低減し支払保険金減少
→利益の増大



自動運転車向け自動車保険への準備



自動運転中の事故の
責任主体は？



自動運転特有の事故
の原因究明は？

システム誤作動、サイバー攻撃…



自動運転システム利用中
事故の状況をどのように
確認するのか？

自動運転車向けの
自動車保険では、
「事故原因の特定」
のための走行データ
取得の仕組みと、
その解析ノウハウが
必要



自動車メーカーと
連携してテレマ保険
に先行して取り組む
ことで、自動運転車
への対応を準備

MS&AD あいおいニッセイ同和損保

「つながるクルマの保険」の商品・サービス内容

日本初のテレマティクス自動車保険



2004年
実走行距離反映型保険
「PAYD」発売

テレマティクス技術により車両データを自動的に収集
毎月1km単位の走行距離に基づく「走った分だけ」の保険料

日本初の運転挙動保険料反映型保険



トヨタのコネクティッドカー向けのテレマティクス自動車保険

タフ・つながるクルマの保険



タフ・つながるクルマの保険



安全運転を楽しむ

安全運転をスコア化することで、楽しみながら運転が日々上進していくうれしさを実感できます。また、運転特性を分析した「ドライブレポート」「マンスリーレポート」の2種類の安全運転アドバイスをご提供します。

1回の運転ごとに振り返り

運転の度に確認できるワンポイントアドバイス 「ドライブレポート」



**安全運転スコア
安全運転アドバイス**
1回の運転ごとに、安全運転スコアとアドバイスをお届けします。



ドライブレポートマップ
1回の運転ごとのドライブレポートを表示します。速度超過・急アクセル・急ブレーキのあった地点が表示されるので、ご自身の運転を客観的に振り返ることができます。



クルマからのアラーム情報
クルマの予防安全装置作動状況や、タイヤ空気圧・電子キーの電池残量など、クルマからのアラーム情報をお知らせします。



安全運転の成果をスコアで実感!

月1回のレポートで結果を確認

毎月の運転結果を振り返れる詳細なアドバイス 「マンスリーレポート」



安全運転スコア/保険料
1か月分の車両運行情報を集積したスコアです。また、保険料額には該当月定分の保険料を表示。安全運転スコアに基づき運転分保険料割引額も表示されるので、成果を実感できます。



安全運転アドバイス
1か月間の運転データから導かれた詳細なアドバイスを表示します。アドバイスはお客様一人ひとりの運転特性に合わせて、個別に作成されます。

2018年12月より、安全運転をもっと楽しくする
新サービスのご提供を開始する予定です

NEW 安全運転スコア
ランキング
NEW 懸賞キャンペーン

※「ドライブレポート」「マンスリーレポート」は乗客の方が運転された場合でも、運転者ごとではなく、ご契約のお車単位で作成されます。
※「ドライブレポート」「マンスリーレポート」は専用アプリ「T-Connect」のみ、または専用サイトより閲覧できます。
※安全運転スコアは、ご契約のお車の販売先に行方「遠征促進・金アセスン・急ブレーキ」の発生頻度に基づいて算出されます。
※「マンスリーレポート」は1か月間の車両運行情報の集計です(例:4/10乗換後契約で8月分レポートは8/10-29までの車両運行情報の集計)。

タフ・つながるクルマの保険



安全運転で得する

安全運転を楽しんでいたら、保険料も割引になっていた。そんなお得な体験ができるのも、「トヨタ つながるクルマの保険プラン」のうれしいところ。クルマを無難に利用される方も、安全運転を褒めていただくことで保険料がお得になります。

保険料は、「基本保険料」と「運転分保険料」で構成されています。

基本保険料

運転分保険料

運転分保険料を決めるのは、「安全運転スコア」と「走行距離」

1

安全運転スコア

安全運転スコア(運転特性)に応じて運転分保険料が割引に

2

走行距離

実際の走行距離に応じて保険料が決定

1

運転特性に基づく納得感のある保険料！

安全運転スコア

80点以上

60~79点

59点以下

安全運転で運転分保険料が割引に

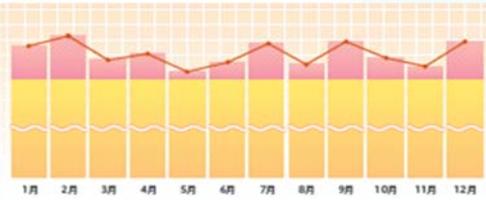
80%割引

40%割引

0%割引

2

走行距離(1km単位)に応じた合理的な保険料！



安全運転スコア	年別走行距離(目安)				
	4,000km <1,333km>	8,000km <667km>	12,000km <1,000km>	16,000km <1,333km>	20,000km <1,667km>
80点以上	92,400円 5%以下との差額 ▲4,800円	93,600円 ▲9,600円	94,800円 ▲14,400円	96,000円 ▲19,200円	97,200円 ▲23,880円
60~79点	94,800円 5%以下との差額 ▲2,400円	98,400円 ▲4,800円	102,000円 ▲7,200円	105,480円 ▲9,600円	109,080円 ▲12,000円
59点以下	97,200円	103,200円	109,200円	115,080円	121,080円

(ご参考) タフ・クルマの保険料 > 101,160円 (運転特性や走行距離に問わず保険料は一定)
※1より2%増える3%以下の運転分保険料は運転分保険料に含まれません。保険料は1%単位で表示されています。

納得感のある合理的な保険料を実現

タフ・つながるクルマの保険

安全運転のポイント

安全運転スコアで高得点を取るには、安全運転のポイントを知ることが大切です。

1 発進

2 運転中

3 停止

ふんわりアクセル



発進時はおだやかにアクセルを踏んで発進しましょう。その後、アクセルを踏み増して徐々に加速します。

適切な車間距離



走行中は加速を少なくし、交通状況(車の流れ)に応じた一定の速度で運転しましょう。そのためには、車間距離を十分にとることがポイントです。

早めのアクセルオフ



減速時は、早めにアクセルを離しましょう。走行中の車はアクセルを離してもしばらくは慣性で進みます。ブレーキの踏み始めはおだやかに踏み始めたらしっかり踏み込んで減速します。

急アクセル



急アクセルを踏むと、車内座席で後ろに引っ張られるような衝撃を感じます。

速度超過



高速道路でずっと超過速度を走行していると気が付かないうちにスピードが出ています。

急ブレーキ



急ブレーキを踏むと、車内座席で前に倒れ込むような衝撃を感じます。

保険料の確認方法

専用アプリ(ナビ・スマホ)・専用サイトのマンスリーレポート画面にて、月々の請求保険料や運転分保険料の割引を確認することができます。

●上記ポイントは安全運転の一例です。実際に走行する際は、交通ルールを守って安全運転を心がけてください。
●運転状況や子どものおびえ等、事故につながる危険を察知した場合は、急激なブレーキ操作をしても危険を回避してください。

タフ・つながるクルマの保険



大切な人を見守る

安全運転を心がけていても、万一の事故やトラブルにはしっかりと備えておきたいもの。「トヨタつながるクルマの保険プラン」では、大きな傷車を検知した場合にはあいおいニッセイ 同和損保から自動的にお客さまへご連絡。レッカー手配や事故の受付、ご家族の方への状況連絡などをサポートします。

ドライバーに 安心を

もしものときにあなたを支える 緊急時リアルタイムサポート

トヨタのコネクティッドカーが大きな衝撃を検知すると、自動的に自動通報受信デスクに通知し、登録された電話番号に「安否確認コール」を行います。専任オペレータが事故直後の初期対応に必要なアドバイスを行います。

ご家族にも 安心を

もしものときに大切なご家族に知らせる あんしん見守りサポート

事故にあってしまったとき、心配してくれる家族にはいち早く状況を伝えたい。そうした声を集めて誕生したのが「あんしん見守りサポート」。「トヨタつながるクルマの保険プラン」では、事前に登録いただいたご家族のメールアドレスに、事故発生のお客さまのケガの有無・救急搬送の有無をメールでご連絡します。



お客さま

安否確認コール

(必ずに必ず緊急車両を手配)

<レッカー手配・事故受付・レンタカー手配など>



あいおいニッセイ
同和損保

自動通報受信デスク

ご家族への情報共有メール送信

<事故初期対応状況をメールでご連絡>



ご家族

※1 安否確認コールによってお客さまの負傷が確認され、専任オペレータがお客さまご自身の119番通報が困難だと判断する場合は、警察の対応本部へ緊急車の出動を依頼します。
※2 事故受付・レンタカー手配は、自動通報受信デスクから専用事故受付デスクに連携され、専任オペレータが対応します。

安否確認コールを希望されない場合

「安否確認コール」を希望されなかったお客さまには、あいおいニッセイ同和損保より緊急時連絡先をメールでご連絡します。これまでの自動車保険と同様にお客さまよりご連絡いただくことで、緊急のレッカー手配や事故のご報告・レンタカー手配等を行います。



お客さま

ご登録のメールアドレスにメール送信



事故のご連絡



あいおいニッセイ同和損保

自動通報受信デスク

こんなケースでも、ご家族に情報共有メールが届くので安心です



お子さまが免許を
取り立てで心配



遠方で暮らす
両親の運転が心配



夫がクルマ通勤
なので事故が心配

MS&AD あいおいニッセイ同和損保

「つながるクルマの保険」発売後の状況

新規獲得力・事故低減効果の発揮

◆新規獲得力の発揮

- 新型クラウンの7月登録台数のうち、AD社マーケットシェアを大きく上回る契約を獲得
- 当社付保の新型クラウンのうち7割以上の契約が、「タフつながる」に加入
- レクサスの新規自動車保険に占める当社占有率も、前年同期に比べて上昇

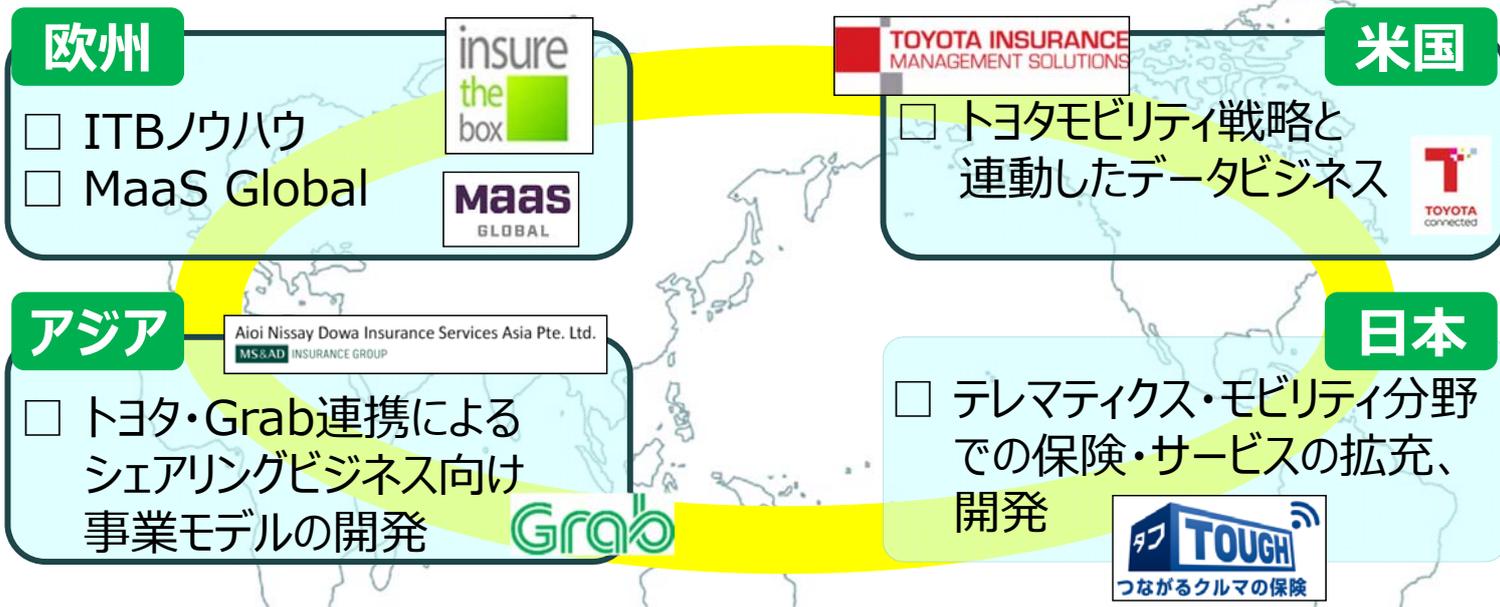
◆事故低減効果の発揮

- 安全運転による保険料インセンティブを得られる商品性から、優良契約の集中・安全運転意識の高まりによる効果により、最高割引率を獲得している契約が4分の3を占める
- 加入後の安全運転意識の高まりによる効果により、「割引がUPした契約」「最高割引を維持できた契約」も全体の4分の3以上を占める
- 従来型の非テレマ商品や走行距離反映のPAYD型商品に比べ、30%以上の事故頻度の低減を確認

海外におけるテレマティクス自動車保険の展開

グローバルなテレマティクス・モビリティ事業の推進

- トヨタ自動車との提携関係、ITBノウハウ活用によりモビリティ分野での新事業を創出
- 日本・欧州・米国・アジアの4極体制でテレマティクス事業・データビジネスを推進



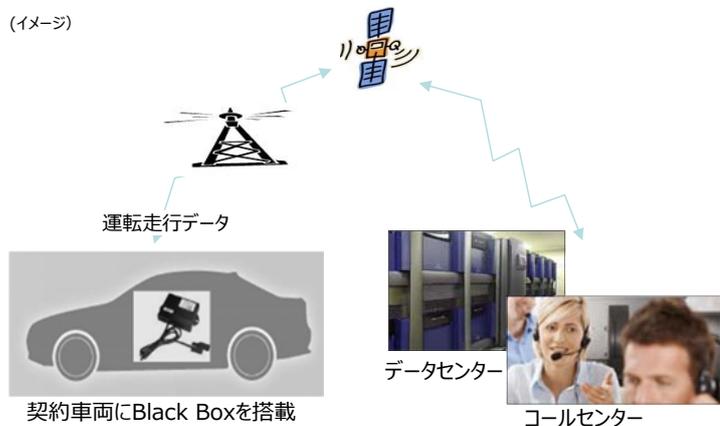
・テレマ・データビジネスの確立
・モビリティ分野での事業機会創出

・4極でテレマビジネスを収益化
・モビリティ分野で新事業展開

欧州 - Box Innovation Group社買収

- 2015年「Insure the Box (ITB)」ブランドで事業展開する、英国大手テレマティクス保険事業者「Box Innovation Group (BIG) 社」を買収
- 累計約90万件の販売、約65億キロ（約地球16万周）分の走行データを蓄積（2018年3月末）
- 独自の商品設計・サービスに特徴

(イメージ)



【収集する主な情報】

The in-tele-box sends us the following information:

- The time of day or night you drive (走行時間帯)
- The speed you drive at on different sorts of road (速度)
- If you brake or accelerate sharply (急ブレーキ・急発進)
- If you take breaks on long journeys (休憩タイミング)
- Your motorway miles (高速道路走行距離)
- Your total mileage (走行距離)
- The total number of journeys you make (運転回数)

- ① 『Blackbox』と呼ばれる独自デバイス(車載器)を契約車両に搭載し運転挙動データを取得
- ② 運転挙動データに基づき、ヨーロッパで最先端の商品・サービスを提供
- ③ テレマティクスを活用した保険料の引き下げ効果は、保険料が高額となる若年層ほど大きいため、同社は若年層を主なターゲットとしている
- ④ ITBは世界第三位の売上を誇るイギリス最大の流通グループ・テスコ社と提携し、テスコ会員データとテレマ保険の連携などにより事業を拡大

■ 契約者に安全運転を促す、安全運転特典付きの「走行距離プリペイド型」の自動車保険

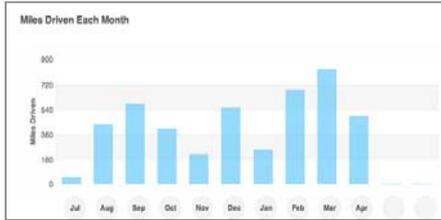
① 契約時に「基本マイル」を購入（年間走行距離「6,000」「8,000」「10,000」マイルから選択）

<1マイル=約1.6km>

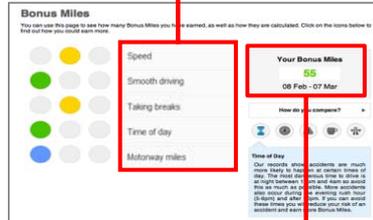
② 運転性向により「ボーナスマイル」を獲得（※毎月最大100マイル獲得可能）

- Blackboxより走行距離や運転性向データを集約、優良者にはボーナスマイルを付与
- 契約者はポータルサイトにて走行距離や運転性向、獲得ボーナスマイルを確認

（毎月の走行距離）



（運転性向）



- ① Speed（スピード）
- ② Smooth driving（安全運転）
- ③ Taking breaks（休憩）
- ④ Time of day（時間）
- ⑤ Motorway miles（高速道路）

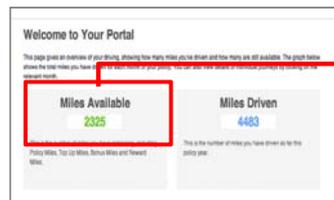
安全運転により付与されたボーナスマイル



- 毎月最大100マイル獲得することが可能

③ マイル不足の場合には、「追加マイル」を購入

- 契約者はポータルサイトにて走行可能な残存マイルを確認、不足する場合は追加購入



マイル不足の場合は追加購入



余ったマイル（「ボーナスマイル」と「追加マイル」）は翌年へ繰越可能

■ 「緊急サービス」： Blackboxからのデータを活用した緊急対応サービス

Blackboxからの情報をもとに、大きな事故が予想される場合には、コールセンターより契約者携帯電話に連絡を行う

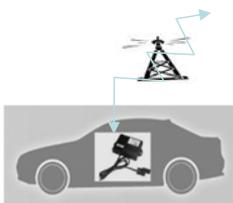
「強い衝撃後に車両が停止したままの場合」

- 自走できないほどの大きな事故であることが予想されるため、契約者へ緊急コールを行い、契約者の無事を確認する
- 必要に応じて、契約者の移動手段の手配などをサポート

「携帯電話での応答がない場合」

- 応答がない場合等には、負傷事故の場合を想定
- 必要に応じて、警察・救急車への緊急コールを行う

※Blackboxによる緊急サービスによって命が救われた事例(右上図 - DailyMail:NEWS)



Little black box under the bonnet saved my life

■ 「盗難車トラッキング」： Blackboxからの情報をもとに盗難車を追跡 → 回収

契約車両からの盗難事故報告をもとに、Blackboxからの位置情報データを活用して、追跡・回収活動を行う

- 車両の位置情報・移動状況等を活用し、警察と連携しながら盗難車回収を実現
- Insure the BoxのBlackboxは外部から目につかない場所へ設置されているため、盗難車の回収率は非常に高い



欧州 - 顕著な速度超過者に対する安全運転誘導

- 著しく制限速度を超過して走行する危険運転者群の損害率は全体平均の約2倍
 - 顕著な速度超過者には「注意喚起メッセージ」を送信し、安全運転へ誘導
-
- 2017年 Tech&Innovation Awardsで「Data Analytics Excellence Award」受賞
⇒ Blackboxで取得した走行データを活用し、“スピードラー”への注意喚起・警告等を還元することにより、顧客の安全運転意識を高め、損害率削減に繋げる取組が評価



欧州 - テレマ技術を活用した保険金不正請求対策

- 取得した走行データを、保険金不正請求排除に活用
⇒ 地図データと組み合わせた詳細な走行データを確認することで、証言(加害者・被害者)の信ぴょう性を判断

<以下、GPSデータを参考にした保険金不正請求排除の事例>

● 15年9月、Blackboxから取得した走行データが裁判所における証拠として初採用

- ・今回の事件では、2名のドライバーが他人のふりをして車両衝突事件に伴う人身傷害請求をしていた。
- ・ITBのBlackboxから取得した走行データに基づき、加害者側が事件発生前の6ヶ月間、約50回も被害者を訪問したことが判明され、ITBは保険金支払いを拒否した。
- ・その結果、裁判官は今回の事件を保険金不正請求事件であると判決し、加害者2人がITBに対して£14,000の賠償金を支払った。

※出典：This is MONEY.co.uk (FINANCIAL WEBSITE OF THE YEAR) 15年10月14日の記事



Going to rights: Insurers are turning to the black boxes the use to monitor customers' driving as a way of fighting fraudulent claims such as crash for cash scams

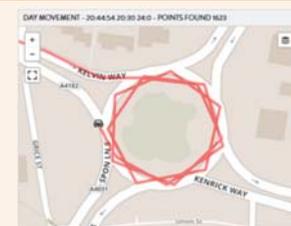
● 約款免責であることを過去からの走行データにより証明

- ・ITBでは業務使用の車については引き受けを行っていない
- ・契約者は業務使用を「なし」という申告をしたうえで契約を締結
- ・後日、契約者から事故報告を受け、事故調査を行った際に、頻りに駐車（エンジン ON/OFF）の場所が自宅と相違していることから、事故担当者は地図情報とGPS情報を活用し特定現場を調査
- ・その結果、特定の飲食店前に駐車していることが判明、配達業務に使用している実態から約款免責として不正請求を排除



● 事故を誘発させる、契約者の異常走行を車載器データで把握

- ・契約者より被害事故発生の事故報告を受ける
- ・契約車両の同乗者は4名、事故時の衝撃により4名全員が怪我をしたと主張（傷害保険金を請求）
- ・事故相手側との報告内容に相違点があり、契約車両の走行データを調査
- ・衝突前の車両の動きは、明らかに異常な行動（ラウンドアバウトを3周）であると判断
- ・結果、事故が発生しやすい場所を敢えて選んだ「故意による事故」として不正請求を排除



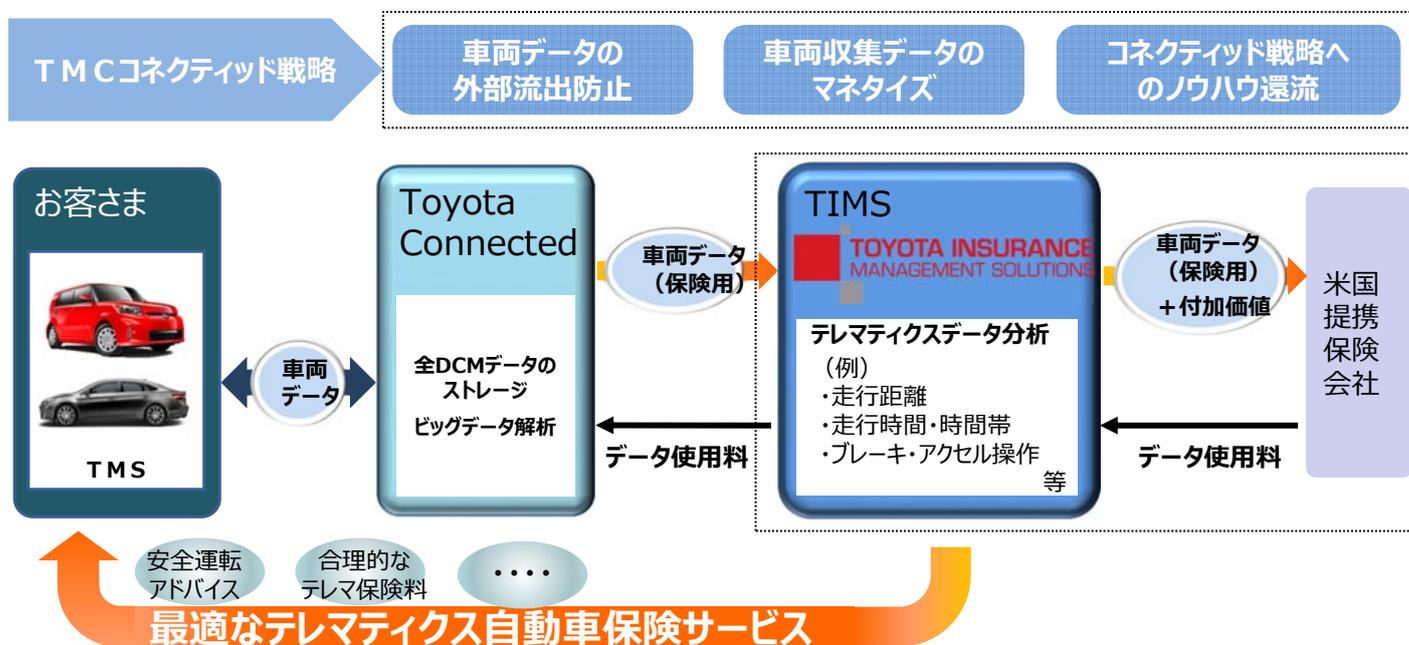
欧州 - 保険金不正請求対策部門賞 2年連続受賞

- 2016年と2017年、ITBがInsurance Fraud Awardsで「Combating Fraud Technology Initiative of the Year」を2年連続受賞



米国 - Toyota Insurance Management Solutions

- データ（トヨタコネクティッド社）、金融（トヨタファイナンス社）、保険（当社）のノウハウを結集し、お客様へ最適なテレマティクス保険サービスをご提供すべく、共同出資会社Toyota Insurance Management Solutionsを2016年に設立（当社50%：トヨタコネクティッド5%：トヨタファイナンス45%）
- トヨタユーザーの車両走行データを、ユーザー向けのサービスや保険料率に反映できるよう、独自のアルゴリズムにより加工し、提携保険会社へ提供



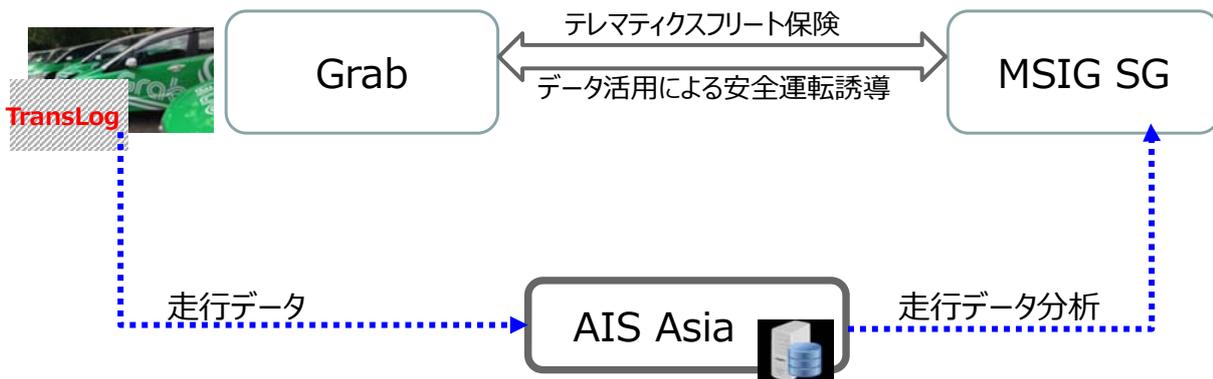
- 今後テレマ・モビリティの発展が見込まれる東南アジア諸国での事業創出と展開を見据え、Aioi Nissay Dowa Services Asia Pte. Ltdを2017年に設立

◆ 主な事業内容：

テレマティクスサービスの提供、コンサル
新領域(InsurTech・自動運転etc.)の調査



◆ Grabテレマティクスフリート保険の例



Grab社と提携し、ライドシェア領域を中心として協業、R&Dを共同推進中

タイ

- 2016年3月 タイ国初の走行距離連動型自動車保険(PAYD)の認可取得
- 2018年3月より発売開始

タイ初の走行距離連動型自動車保険の認可取得！

2016年3月8日

MS & ADインシュアランス グループのあいおいニッセイ同和損害保険株式会社(社長：鈴木 久仁、本社：東京都渋谷区恵比寿1丁目28番1号)のタイ現地法人であるAioi Bangkok Insurance PCLは、走行距離連動型自動車保険の商品認可をタイの保険監督局(OIC:Office of Insurance Commission)より2016年3月2日付で取得しました。タイでは初の走行距離連動型自動車保険となります。

昨今、テレマティクス技術[※]の進化に伴い、欧米を中心として自動車の走行データを活用した様々な商品やサービス提供が行われています。タイでもこうした世界的な潮流に追随する中で、同国の他損保に先駆けて商品認可を取得したものです。

※：テレマティクスとは、「テレコミュニケーション(通信)」と「インフォマティクス(情報工学)」を組み合わせた造語。カーナビやGPS等の車載機と移動体通信システムを利用して、様々な情報やサービスを提供する仕組み。

1. 認可を取得した走行距離連動型自動車保険について

自動車の走行距離に応じた自動車保険で、走っただけの合理的でムダがない保険料をお支払い頂くものです。PAYD(Pay As You Drive)型自動車保険とも言われます。

今般の認可取得を受け、本年内にタイでの新商品発売を目指します。